



「銀座レトロギャラリー MUSEE」では、定期的に見学会も行なわれている。代表の川崎力宏さんが、建物の歴史や展覧会企画での実験的な取り組みを紹介している。①銀座たてももの実行委員会が主催する見学ツアーでは、建築史家が建築様式や歴史などをガイドしてくれる。



©アーク・コミュニケーションズ/田村裕未

「高層のビルが立ち並ぶ銀座の昭和通り沿い」にあって、「銀座レトロギャラリーMUSEE」の一角がタイムスリップしたかのような独特な雰囲気を持っている。



「建物の構造は鉄筋コンクリートだが、天井と床は木造という珍しい造りの「銀座レトロギャラリーMUSEE」。伝説的な美術集団、「ネオ・ダダ」の創設メンバー、風倉匠氏(1936-2007)の作品が常設されている。②加飾タイルという当時としても珍しいスクラッチタイルが外壁に使われている。



和光

Address/東京都中央区銀座4-5-11
Tel/03-3562-2111
営業時間/10時30分〜19時
定休日/年末年始
Access/東京メトロ各線「銀座」駅から徒歩約4分

奥野ビル

Address/東京都中央区銀座1-9-8
Tel/03-3561-1818
営業時間/テナントにより異なる
Access/東京メトロ有楽町線「銀座一丁目」駅から徒歩約1分

銀座レトロギャラリー MUSEE

Address/東京都中央区銀座1-20-17
川崎ブランドデザインビルディング
Tel/03-6228-6694
営業時間/11時〜18時
定休日/月・火曜
Access/東京メトロ有楽町線「銀座一丁目」駅から徒歩約3分



「銀座は様々な文化を発信してきた歴史がある街です。この建物でしか見ることができない新作を発表することを念頭に、美術作家と日々試行錯誤しています。鑑賞者の審美眼や知性を揺さぶるような価値観を発信してこそ、建築が生きると感じています」。また、近代建築を活用し、ツアーやアートイベントなどを実施する、銀座たてももの実行委員会のすがわたかみさんは、70年代に当時の若手建築家から生まれたメタボリズム建築を代表する、中銀カブセルタワービルの住人でもある。「新しいものを積極的に取り入れていく銀座にあって、昭和初期のビルをはじめ、魅力ある建築が残っていることが、銀座の多様性を豊かにしていると思います。見学ツアーなどのイベントを通して、身近な街の魅力を発見するきっかけにもなっているようにです。実際、実際に愛着を感じてこの街に住む若い人も出てきました」とすがわたかみさん。

レトロ建築が価値を見出され、その魅力は変わりゆく銀座で、レトロ建築は残り続ける。



「時計をはじめ、宝飾品、紳士・婦人用品、室内装飾品などを扱う専門店として長年愛されている「和光」。①「奥野ビル」には、扉が手動式のエレベーターが現在も稼働している。階数表示がいかにもレトロ。②当時はモダンだった「奥野ビル」階の丸窓は、今も変わらず残っている。

江戸時代、職人街として栄えた銀座。その街並みは、1872(明治5)年の大火で多くが焼失。それがきっかけとなり煉瓦造りの建物が立ち並んだ。ところがその街も1923(大正12)年の関東大震災で瓦礫の山となってしまう。再び復興の槓音が響きわたり、当時気鋭の建築家たちによるモダンイズム建築の建物が新たな銀座の顔として出現した。

銀座四丁目交差点に立地し、荘厳かつ優雅な印象を与えるネオ・ルネッサンス様式の「和光」、櫛で引つかいたような細い溝の模様があるスクラッチタイルを外壁に用いた当時のモダンを色濃く残す「奥野ビル」や「銀座レトロギャラリーMUSEE(旧宮脇ビル)」といった銀座を代表するレトロ建築は、どれも1932年竣工の震災復興建築である。戦火を免れ、高度成長期を経て、今も確かな存在感を示すこうした建築物を街の魅力として取り上げ、様々な活動を行う人々がいる。

2013年、旧宮脇ビルを買取り「銀座レトロギャラリーMUSEE」という新しいスタイルでレトロ建築を蘇らせた川崎力宏さんもその一人。商業地の真ん中で、小さなレトロ建築を残すことに価値を見出したという。建築の保存と企画展中心の画廊運営という現在の取り組みについて、川崎さんがこう語

生まれ変わった街
銀座に残る
風格のあるレトロ建築